

雷舞 亜樹、その質問は、踊平に酷だって。  
亜樹 わかってる。

雷舞 踊平だって、ダンスやめたくてやめたわけじゃないんだから。お母さん助けるために。  
亜樹 だからわかってるって。

雷舞 じゃあなんで。

亜樹 あの時の、踊ってる二人が好きだったから。

雷舞 ダンスやっててもやってなくても俺らはそんなに変わらないよ。  
亜樹 そう？

雷舞 変わらない。

亜樹 じゃあ雷舞は？

雷舞 え？

亜樹 雷舞はダンス、好きだよね？

雷舞 俺は……

亜樹 うん。

雷舞 わかんねえよ。そんなの。

涼華が働いている。

踊平 ただいまー。

涼華 おかえりー。

踊平 ただいまー。ごめん、ちょっと遅くなっちゃった。

涼華 大丈夫大丈夫。ちょうど落ち着いたところだから。

### 【追加シーン】

音楽。夕暮れ。

① 2階エリア。伝説と福住が会おう。福住は不審がるも、ダンス部を救うという伝説とわかり合い、踊る。

② 学校からの帰り道。千尋、岬、耕治、銀八。

岬 返してください！

銀八・耕治が通せんぼなどするが、取り返す岬。

千尋 あ……

岬 よっしゃ。

銀八・耕治 あ……

岬 ……やっぱり入部します。

3人 いいの？やったー！（など）

銀八 じゃあうちの寿司屋来いよ！

③ 踊平の家。魚屋。接客をする涼華、買い物をする温子。

涼華 はい、じゃあ〇円のお返しね。いつもありがとう！

温子去り、勇次魚屋へ。

勇次 こんにちは！

涼華 おー！どしたの？

勇次 差し入れです。

涼華 え！いいのこんなに？

勇次 いつも息子がお世話になってます。

涼華 こちらこそだよ！

勇次 また！

涼華 ありがとね！

踊平　なんか校門で踊ってるキラキラした変な（など色々説明）おじさんに捕まって、遅くなっちゃった。  
涼華　どういう状況？全然わかんない。  
踊平　そうだよね。とにかく、遅くなつてごめん。うわ、これどうしたの？  
涼華　（オフ）いやなんか、勇次さんが持ってきて来てくれて。  
踊平　雷舞の父さんが？すげー！  
涼華　クラス替えどうだった？  
踊平　ああ、雷舞と亜樹と一緒にだった。  
涼華　えーよかったじゃない。  
踊平　まあでも今更そんなに。  
涼華　亜樹ちゃんはダンス部のマネージャーやってるの？  
踊平　なんか1年勧誘してた。  
涼華　雷舞くんは？  
踊平　まあ変わらず。  
涼華　二人ともダンス続ければいいのに。  
踊平　母さんまで。  
涼華　え？  
踊平　いや。別にもうダンスに興味ないし。雷舞もそんな感じだった。  
涼華　そう。残念。  
踊平　残念じゃないよ。俺は、魚屋やる方が楽しい。  
涼華　ならいいけど。  
踊平　（ジュースを受け取り）ありがと。明日の仕込みからやっちゃうね。  
涼華　ありがと。

踊平が仕事に取り掛かろうとする。

涼華 踊平さあ。

踊平 なに？

涼華 手伝ってくれるのは助かるし嬉しいけど、やりたいことやっていいんだからね。

踊平 だから、やってるって。

涼華 お金のこととか、この魚屋のこととか、なんとでもなるよ。でも踊平の今は、なんていうの、今しかないんだから。俺は逃げたバカ親父みたいになりたくない。

涼華 え？

踊平 顔も覚えてないけどさ、絶対この家を逃げた父さんみたいになりたくない。母さんに迷惑はかけない。それはありがたいけどさあ。

踊平 この話は終わり。さあ、仕込み仕込み。

家の電話が鳴る。

涼華 あ、私出るよ。

涼華が電話に出るため中に入る。

踊平は作業をしながら独り言。

踊平 ……これでいいんだ。ダンスなんて、俺はもう、興味ない。興味ないんだ。ダンスなんて……

涼華が戻ってくる。

涼華 踊平、学校から電話で。

踊平 え、俺、何も悪いことやってないよ。  
涼華 違う違う。明日、ダンス雑誌の取材が学校に来るんだって。踊平と雷舞くんが取材受けるって。  
踊平 え、なんで俺ら？

雷舞の家。

勇次と温子が無駄にはしゃいで喜んでいる。  
呆れている雷舞。

雷舞 なんで今さら俺らが取材受けるんだよ。

勇次 ガッハッハッハッハ、ガッハッハッハッハ、ガッハッハッハッハ。

温子 福住先生から電話が来たのよ！すごいわ！ダンス雑誌にライちゃんが！

勇次 今夜は祝いだ！雷舞も酒飲むぞ！

雷舞 未成年！

勇次 父ちゃんが15で漁師始めた時はなあ！

雷舞 はいはいまた昔話。

温子 あ！あんた、そんなことより、明日どうすんの？

勇次 そうか。雷舞の出番は何時だ？

温子 放課後だって。

勇次 漁はとつくに終わってらあ！

雷舞 まさかとは思うけど、来ようとしてる？

温子 当たり前じゃない！

勇次 そうだ、雷舞の晴れ舞台なんだからな！（酒を注ぐとする）

雷舞 いやいやいや未成年！

温子 あ、あんたあれ、久しぶりに出さなきゃ。

勇次 そうだ！どこにあったっけな。  
温子 確か押し入れに。

二人部屋の外に出て。（勇次、温子、オフ台詞あり）

雷舞 なんか、嫌な予感がある……。ていうか、あの二人から、よく俺みたいな感じに育ったな。我ながらよくともに育ったわ。  
温子 あった！  
勇次 よし！広げる！

二人が横断幕を広げて持つてくる。

「雷ちゃん、日本一！」とデカデカと書いてある。

勇次・温子 よっ、らいちゃん日本一！

雷舞 久しぶりに見たわ。恥ずかしすぎるから捨てとくべきだった。

温子 そんなこと言わないでよ！

勇次 そうだぞ！知り合いの職人さんに頼んで作ってもらったんだぞ。

雷舞 いや嬉しいけどさ、・・・ちよつと待って、明日これ持って来ようとしてる？

勇次 おい温子、寿司頼んどかなきゃな。

温子 新八さんとか電話しとこ。そうだ！母さんストパー当てなきゃ！もう！なんで前日に言うのよ！大変大変！

勇次 応援団集めるぞ！とりあえず漁師仲間には全員声かけて。ざっと50人ぐらいか。50揃えや十分か。瓶ビール3  
ケースぐらいお願いしとくか。

温子と勇次がやらなきゃいけないことをハイテンションで言い合ってる。良き時に。

雷舞 ちよつとちよつとちよつとー！  
二人 ん？  
雷舞 明日はただの取材！絶対来るな！  
二人 えー。  
雷舞 えー。